

本を選ぶ

高校図書館版

NO.16 1993年(平成5年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 千162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン 517 TEL.03-3235-6168

ぶっく・えんど

我流

本がお好きなんですって、と言われて即座に返答できなくなってからずいぶん時間が経つ。ひとつ間をおかねばならないのは、本を読むことが苦手だからだ。読み通すのは年間でせいぜい十冊くらいだろうか。なのに、本は好きな方かもしれないから困ってしまう。読書がつらいのは生来の無精故のみならず、あまり読まずとも本が楽しめる邪道を覚えたからかもしれない。それを高校生頃に教わったらしい。

読まないで眺めるのだ。ばらばらめくるといって感じで見る。斜に頁を追う。拾って読み、相性がよければしばらく読み進む。波長の合ったそれなりの本ならこれで結構いける。大体の察しがつけばそこで満足してしまう。その本を自分なりに凡そ評価してしまう。最初から最後まで読み通すことがなくても、やり方があるわけだ。本一冊まるごとをそのすべてとしてとらえるのではなく、ほんの一部分と自分との距離が合うことが大切となる。乱暴なやり口だが、自分がよいならよい式の傲慢である。人には薦められないし、褒められもしない。

ふりかえると、どうやら読書教育への反発が根強く残っているせいらしい。

読書を教えるということは難しい。本を読む楽しさと、読書という知的訓練とは常に一致するものではない。それをいっしょくたに進めようとするとう無理が生じる。いきおい選択される材料も文

学的な色彩が濃くなる。国語教育と読書教育が混然とした状況では生半可な結果しか出てこないはずだ。読むことは誰だってできるはずだという前提から出発しているから、さらにその落差が大きくなって楽しみからは遠ざかってしまう。読み手の側には生煮えのまましこりとなってわかまりが増す。きっとこんな経過をたどったのだらうと思われる。

手軽なようにみえる読書も、実はかなり高度な要素が詰まっていることに改めて気付く。

物語をあてがい、どこにどう感動したか書かせる。読む、ということよりもその感動の表現に意を注ぐことが専らの関心事となる。月並に感動したなどと書こうものなら、心証はよろしくない。一言では片付かないはずだから、もっと何かあるだろうという覆いかぶさるような前提が未熟な読者を苦しめる。読書という行為から読後感の文章表現という誘導コースが整っているわけだ。コースを周回することに意義があって読書そのもので完結するわけではない。本を読むことによって、そこから期待されている反応をいわば引きずり出そうとしているかのようだ。

まず、読む前からすでに読むことの窮屈にからめとられているから、苦痛を伴わずにはいない。だが用意された感動に大した中身はないのだ。情緒一本槍の世界だけに偏した読書の強要は、読書崇拜の裏返しの結果に終る。

不幸だったわけでもない。図書館には拾って読むことのできる本がたんと備えてあったのだ。自分で本を選べるから苦痛は少ない。横着な我流はこうして始まった。

(埜村太郎：竹林舎)

座談会 高校の図書館ってどんなところ? 続

本誌は春と秋の2回、全国5千余の高等学校にお届けしています。出版社の営業部門第一線で活躍のお三人が5千人の高校の司書さんへ送る頑張れエール。お仕事を楽しくする提案続々。

持谷/地方の高校の司書さんたちは情報が少ないから現物を見るチャンスがないわけでしょう。それで本を選ぶ立場にいる人が、数の上では圧倒的に多い。しかも一人でやってんじゃ、その人たちに元気出してもらおってのは、なかなか難しいな。大野/司書のいちばんの楽しみは、選書した本が読まれることだと思うんです。書店で自社の本を手にとっている客がいると、心のなかで「はやくレジへ持っていけ!」と叫んでしまうことがあります。おなじような心理はカウンターの中の司書の方にもあるのではないかと思います。出版社の営業マンが、書店員に気付かれぬように自社の本を目立つ場所に置き換えたり、手作りでポップを作ったりするように、司書の方も「わたしが選んだ今月のベストワン。司書の京子」とか、「この本は2年C組の明菜ちゃんのお読書です」などと書いたポストイットなどつけてプロモーションしたらいかがでしょうか。

持谷/司書さんに若い人が多いのは希望が持てますよね。どこかでちょっと転換すれば変われますよ。ただ、二十代の方は、本を探すのがあまり得意でない部分があるので、そこいらへんの鍛練は必要あるかもね。もうちょっと発想の転換を各人の立場に合わせて、細かくやっていたら変われると思う。正攻法はすぐに壁にぶつかっちゃうから。軽い動きで。

川島/悪名高い偏差値をあえて肯定的にとらえると、輪切りにされた自分たち一人一人が実はいかに違うかをより自覚するための一種の個性あぶりだし装置として考えることだってできますよね。持谷/置いてある本はどんな難しい本があってもかまわないと思う。偏差値で輪切りにされた生徒が入ってくるので、そのレベルに合せた本をそろえようなんて思うと必然的にどんどん絞らざるを得なくなる。絞る口実だったら否定的な材料はいっぱいあるわけですから。

雑誌にアンテナを

持谷/地方と首都圏の反応を直接的に埋めるのは雑誌でしょうね。流通の仕組が雑誌は全国津々浦々に行くようになってるから。雑誌で紹介され

ているものをどれだけの感度でみることができるかっていうことなんでしょうね。『マリークレーン』ではある程度堅いところ。『クロワッサン』はもう少しやわらかい。これははっきりわかる。本屋さんでどんな本が売れてますかと聞くより、どういう雑誌読む人がいますかという尋ね方のほうが当たってる場合がありますよ。雑誌は比較のお金かからないから、突破口にできればいいんじゃないかて気がするんです。

大野/選書の情報源として新聞の書評や広告の占める割合は大きいと思いますが、若い人を対象にする場合はマイナーな雑誌の書評なども参考にすべきだと思います。例えばわが社のかたい本がロック系の音楽雑誌で紹介されることがありますが、感性だけで読んでるので、ぼくなんかから見ると殆ど書評の体をなしていない。でも何か面白そうだという感じが出ているんですね。こういうものはその雑誌の読者層をあてにして、エイヤッて買ってしまうのもいいんじゃないですか。持谷/出版はどうしても首都圏中心。商売のレベルでいえば地方の人にも買ってもらえば部数は伸びるという言い方はできるけども、やはり、マスは大都市から発せられるものでしかない。出版物はそういうところから流れているものだという理解の仕方しかないという気はします。

わいわいがやがやの図書館

川島/いきなり本の話をつづけるんじゃないで、「私は〇〇が面白いけど、君たちは?」といった具合に、自分が面白がっている物事を気軽に話し合う状況を常につくっていった方が結果的には本につながっていくのではないかな。まず読書ありきを前提にしてしまうと、もともと本が好きな子はいいとして、そうでない子にとってはかえって排除の力学がはたらいてしまいかねないですね。持谷/高校の司書の先生が真面目であればあるほどいきなり本につながるのわかる。真面目だから本が好きじゃないといけないうて思いこむ。そうじゃなくていいんだと思えば楽なのに。そういうことは一人じゃ無理だから、よその学校の人と話しては、「おまえんとここんなふうにしてる

持谷寿夫さん

?近頃食べて美味しかった:イカ墨のスパゲッティ(恐れていて食べたのを勧められて初めて)/ハヤシライス(自力で作れる数少ないメニュー。自信があります)
?行きつけの書店:ブックスページワン(JR赤羽駅)須原屋書店本店(須和町)
?購読雑誌:『ビッグコミックオリジナル』『週刊文春』『こんにちは(不動産屋さんの広告誌)』
?近頃面白かった本:『飯屋の家』(共同通信社)『ペリカン文庫』(新潮社)
?来年は:図書館と本屋さんの共同のブックフェアを考えた!/ようやく手に入れた4WDなんとかロングドライブを実現へと

川島勉さん

?近頃食べて美味しかった:米(これからはもっと噛みしめて食べたい)/秋刀魚(塩焼。いわゆる旬の味ですな)/鳥カレー(本郷のベトナム料理店「ミユラン」のランチメニュー。月に2~3回食べています)
?行きつけの書店:文泉堂書店(文京区)熊山書店(江東区)
?購読雑誌:『宝島30』『広告批評』『噂の真相』『音楽の友』『週刊プロレス』
?近頃面白かった本:『少女へのまなざし』(NHK人間大学テキスト)『開田川小唄』(日本文芸社)『セクシー・ギャルの大研究』(光文社)『プロレス少女伝説』(文春文庫)『熟男(だんまりいち)』(新潮社)ジャンルの違いはあっても、どれも女が女について書いたものになってしまった。きっと自分が、女のおもしろいと思っているからだろう。
?来年は:本当は今すぐやらなくてもいいのだが、部屋の中の根本的な整理作業。

大野曠太郎さん

?近頃食べて美味しかった:近所の肉屋さんが漬けてくれる新鮮なレバー。食後はオカミになったような穏やかな気分/10年ぶりに食べたメキシコのチキンラーメン。安い=不味いと思いつけていただけに、まだあったのかという思いも/榎平(銀座)の「むきそば」。「むきそば」を知らない人は、かならず「ホッ」と感じます。
?行きつけの書店:リプロ(池袋)
?購読雑誌:週刊誌(朝日・文春・ポスト)/月刊誌(美術手帳・芸術新潮・マリクレール)etc.
?近頃面白かった本:『光と風のなかで一愛と音楽の軌跡』(強生書房)
?来年は:高校の図書館に行きたい。

馬鹿だな」なんて言えれば、違う展開が出てくるかもしれない。

川島/まず図書館ではたらく人が自分の人生を楽しんでいないと、図書館が楽しい場所にはなりにくいんじゃないか。図書館がたんに本を読んだり借りたりする施設というのではなく、そこで顔を合わせる人たちがワイワイおしゃべりするような、まるで図書館じゃないみたいな場所であってほしいですね。それと学校の中だけで完結しないで、広がりのある人間関係をつくってほしい。そして、それを生徒に伝えてもらいたい。彼らはなんてたって学校の外の世界が大好きなんです。

ふたたびYA

持谷/本をどんどん集める。畏れないでやる。そのためには孤立しないこと。例えば「性教育」。今まではこわごわとやってたけど、エイズのことが出てからは一気にコンドームの使用法。今ならセックスの本をどんどん買って誰も何にも言わないと思う。そういう全体主義的な動きも怖いけど。

川島/テレビではヤングアダルトなんて意味不明な領域はありませんから、不倫だろうが何だろうがやりたい放題で、高校生にもなれば下手な大人以上の情報をもっている。本の世界だけがヤングアダルト云々にこだわっているのが私にはまったく理解できません。本の世界はすべてをオープンに反映したものでなくては面白くもなんともない。わざわざ部屋を仕切るべきではないと思います。

本屋さんと仲良く

持谷/予算とか権限の話があるのですが、本屋さんにもっと行ってほしいですね。

川島/高校時代に「図書館へはあまり行かなかったけど、本屋には毎日寄ってたよ」なんて人がけっこういます。高校生はマメに複数の本屋さん

を回って必要に応じて使い分けてるし、むしろ先生方よりも書店について良く知っている。同じ本でも、学校の図書館ではそうでもなかったのに、学校の外だと読みたくなっていくという現象もありますよね。だから本屋さんが身近にない高校生はちょっとかわいそうです。流通上の問題もあって、最新刊は図書館では即対応しにくい面もあるし、書店の役割もやはり重要なんですね。

大野/商売熱心な本屋さんやレコード屋さんに行くと、手書きのポスターがべたべたと貼ってあります。美しくはないが思いが伝わってきますね。それは商売だけでなく、本や音楽が好きだからやっていけるんですね。さっき言ったことと重なるけれども、生徒に選ばせて、その本の宣伝コピーを生徒の言葉で書いてもらうのも一案だと思います。本の帯の言葉につられて買ったが期待外れだった、というような読者カードが送られてくることありますが、僕なんかそうしたことに對する罪の意識は殆どないですね。自分がその<被害>にあったときは、騙された自分が悪いと諦めるようにしていますから。

持谷/本は他のメディアと違って、ずっとある、後からでも読めるのが特徴です。それも本屋さんだったらなくなるけど、図書館だったらずっとあるんだから。そこら辺で司書さんに自信を持ってもらいたい。こちら若者のライフスタイルは気になります。今はわが社の出版物を読まなくても、いずれは読者の予備軍。みずずの本との出会いが図書館でと聞くと、それだけでとても嬉しい。

川島/出版社はどこでもそんな気持ちでなんとかがんばっているわけですよ。

持谷/現場の人に現状の辛さをいわれるとどうしようもなくなります。最終的には問題は自分自身のなかにあるという認識がないとそれ以上の会話は成立しないんじゃないですか、子どもとの間にも本との間にも。(おわり)

CD-ROMって意外と便利!?

木下通子

CD-ROMはソフトです

今回はCD-ROMのお話です。今、うちの図書館には、5種類のCD-ROMがあります。

CD-ROMというのは、“Compact Disc Read only memory”の略で、形は音楽のCDと全く同じ、そこに音ではなく文字情報が書かれています。

1989年に本校で最初に導入したパソコンはエプソンのPCシリーズ。それにCD-ROMユニットをつなぎ、同時にJ-BISCを購入しました。

1992年にコンピュータ導入の特別予算が新たに200万円ついて、このお金をNECのパソコンを2台、CD-ROMユニット1台、周辺機器いくつかとJ-BISCの遡及版を購入しました。これでパソコンが3台になったわけです。

パソコンで検索すると言っても、残念ながら本校の図書データの入力には完全に終わっていません。“CD-ROMも検索できます”といいながらJ-BISCだけしかないのではあまりにさみしいので、授業にも役だって検索しても便利なものということで、『平凡社世界大百科事典』のCD-ROMをこの年の残り予算を全部つぎ込んで購入することにしました。

3月も末に近づいた頃、「県費の需要費（1万円以下のもの）が少し残っているのだけど、図書館でほしいものある？」と事務室から聞かれました。私はこそぞ！とばかりCD-ROMがほしいと頼みました。「CD-ROMはソフトです」と説明すると、ソフトなら1万円以上でも県費で買えると教えてくれました。急いでJ-BISCを購入している代理店に連絡し、学校図書館向けのCD-ROMのデモをしてもらいました。何種類かのCD-ROMを実際に見て、この予算で、『現代用語の基礎知識1992年版』『広辞苑第4版』『CD-BOOK'91~'92』『CD-HIASK'92』を購入しました。

こわごわマウス

春休み中に『平凡社大百科事典』と『現代用語の基礎知識』が届きました。生徒が自分で検索できるように閲覧室に出しているパソコンで使える

ように設定しました。マウスを使うのも初めてでしたが、案外うまくいきました。この2つのCD-ROMは使いやすく、操作方法も簡単です。同じ会社で作っているものなので、検索方法はほとんど同じ、検索は“見出し語”か“キーワード”検索が基本で、見出し語の場合は百科事典のページをめくるように、たとえば「アメリカ」とひくと



埼玉県立岩槻商業高校図書館

「アメリカ」の項目が出て、その前後の言葉も出てくるというような形です。

現代用語の方はメニュー検索もできて、本と同じように項目がたてられています。「これを調べたい」という目的がない生徒も、おもしろがってこの項目で遊んでいました。マンガの項目を引くと絵が出てきたり、湾岸戦争を引くと該当の地図が出てきたり、パソコンやファミコンになれている子どもたちにはかっこうの遊び道具です。この2つのCD-ROMは、今行われている地理の授業で大活躍していて、生徒は自分たちで簡単に検索し、プリントアウトしていきます。『現代用語の基礎知識』などは本の形だと見たい項目をなかなか探せない生徒も、CD-ROMだとバッチリのようです。

新聞記事も検索できる

当初閲覧室で使う予定だった『CD-BOOK'91~

'92)と『CD-HIASK '92』は、諸般の事情から司書室のパソコンで使うことになりました。

『CD-BOOK』はJ-BISCと違い、本の解題が入っているところが便利で、書名、著者名だけでなく、キーワードからも該当の本を探せます。

『CD-HIASK』はご存知のとおり、朝日新聞の縮刷版で、掲載された日付がわかっていなくても、項目で探せるというのがとても便利です。ただ、出力の方法がプリントアウトしかできないので、リスト作りや関連記事作りに最適のCD-ROMなのに、ワープロソフトに取り込むことができません。『CD-HIASK』で検索をする時、メニュー画面が3か月ごとに区切られているので、同じ検索を4回も繰り返さなくてはいけない！と不便を感じていたのですが、たまたまある記事を探そうとして普段さわらないファンクションキーを叩いてみたら横断検索という技を発見して1回で探せるようになりました。

リスト作りにも大活躍

毎年、修学旅行の課題学習と連携をしています。昨年までは“いくつかの課題にそったレポートを書く”という形だった事前学習が、今年は「原爆」をテーマにした読書感想文に変わりました。これでは昨年まで蓄積してきたデータが使えません。読書感想文を書くには、本を選ぶためのブックリストが不可欠です。『CD-BOOK』を活用して“原爆”とひととあるわあるわ、その内容を全部プリントアウトし、

解題を読みました。『CD-BOOK』だけでなく、戦争関係のブックリストなども参考にして教師と相談し、“原爆を読む”というタイトルのブックリストを作りました。もちろん自分で読んで解題を書いた本もありますが、半分くらいは『CD-BOOK』のお世話になりました。

気楽に挑戦

今はたくさんCD-ROMが発売されています。代理店に問い合わせるとカタログを送ってくれますし、パソコンがあればデモにも気軽に来てくれるので興味がある方は問い合わせ見て下さい。私が使っているより、もっともっと便利な使い方があると思います。

さて、色々CD-ROMについてお話をして来ましたが、「どうせ図書館にパソコンがないからCD-ROMなんて使えないわ」と思っている方、図書館に古くなったパソコンを保管転換してもらって、CD-ROMユニットを買って接続して使ってみるというのも、一つの手かもしれませんよ。

今年の9月の時点では本校のデータはコミックだけが、完璧に入力済みで、貸出しもパソコンで行っています。10月から岩槻商業高校図書館が全勢力をあげて、本のデータ入力の終了を3月に向けてめざします。この次にお会いするときには、「データが全部入りました！！」というお話ができるといいなあ…。

(きのしたみちこ：埼玉県立岩槻商業高校図書館)

図書館の みなさんへ

岩波書店では、図書館のみなさんのご意見・ご要望を直接にお聞きしたいと考えております。

03-5210-4113

FAX 03-5210-4117

岩波書店 営業部図書館係・加藤

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

体育・スポーツ総合出版

ベースボール・マガジン社

スポーツマン・シップを応援します。

「一隅を照らす」出版活動

恒文社

世界の潮流を、日本の文化を見つめます。

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03(3238)0181 FAX03(3238)0084

ソフトテニスのルールが変わる！
指導者必見！

平成6年度から採用の
「新ルール」対応ビデオ新発売！

ソフトテニス●初・中級者対応ビデオ(2巻セット)
「新時代の初心者指導バイブル」

VHS ①70分 ②60分 解説：斎藤孝弘
2巻セット価格18,000円(税込)

ソフトテニス●中・上級者対応ビデオ
「新ルールの練習法と戦略」

VHS 60分 解説：西田豊明
価格9,800円(税込)

企画・製作／(財)日本ソフトテニス連盟

株式会社 ベースボール・マガジン社

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎03(3238)0181 FAX03(3238)0084

英国の伝統を継ぐ小説家＝稀有の批評家

E. M. フォースター 著作集

全12巻

最もイギリス的な小説の名人、リベラルな精神をもった稀有の文明批評家の作品を初めて集成。『ハワーズ・エンド』『民主主義に万歳二唱』など、ほぼ全ての作品を本邦初訳・新訳で提供する新鮮な企画。

第1回配本『眺めのいい部屋』¥3605 11月刊

東京文京本郷3 みすず書房 ☎03(3814)0131

続刊(隔月一冊発売)

- ⑩ 産業革命 浅田喬二編
- ⑨ 占領と戦後改革 高村直助編
- ⑧ 太平洋戦争 中村政則編
- ⑦ 大正デモクラシー 由井正臣編
- ⑥ 日清・日露戦争 金原左門編
- ⑤ 自由民権と明治憲法 江村栄一編
- ④ 明治維新 田中彰編

③ 近代の天皇 鈴木正幸編
② 都市と民衆 成田龍一編

近代日本の軌跡 全10巻

幕末維新から太平洋戦争、そして戦後の55年体制の成立まで。世界的な視野から、近代日本の光と影に迫る。

四六判・上製・平均270頁

吉川弘文館

113 東京都文京区本郷7丁目2-8
電話03-3813-9151(代表)

11月刊 2300円
4月刊 2400円

たこやき

熊谷真菜／朝日、赤旗から、週刊文春、クロワッサンまで多くの書評で紹介され、NHKのニュースにもなった話題の本。たこやきの歴史から、世相や職人達の姿が生き生きと浮かび上がる。1500円(税別)

思いちがい辞典

別役実／古今の辞書の定説をくつがえす解釈と洞察が小気味よいエッセイ集。1500円(税別)

リブレポート

〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2 電話03-3983-6191

高校生に環境問題の
たしかな知識を

いま、生命を育むために
私たちがすべきことは何か？
私たちは生命と環境を考え続けます。

だれでもできるやさしい

水めしらべかた

- 水道水
- 河川の水
- 酸性雨
- 台所排水
- 食品添加物などをしらべる



〒101 東京都千代田区神田神保町1-52
TEL 03(3294)3506 FAX 03(3294)3509

合同出版

洛中・鴨川東岸発 季節のたより

鴨東通信

AUTUMN
1993.11
No.12

ていーたいむ おとうつうしん

「天皇」へのがぶり寄り 京楽真帆子
シンボ「天皇の文化と権威」観戦記
私のノートから 石田潤一郎
「象徴」と「容器」のはざまて

西洋化の構造 園田英弘著 7,725円

都道府県庁舎 石田潤一郎著 8,858円

精選 山頭火遺墨集 鴻池楽斎・稲垣恒夫編 9,800円

株式会社 思文閣出版

〒606 京都市左京区田中関町2-7 ☎075-751-1781
〒113 東京都文京区本郷2-29-10 ☎03-5689-0635